

16年度 岩手医科大学卒業式



主な内容

特集—— 患者さんに寄り添う当院のアピアランスケア

トピックス—— 最終講義が行われました

トピックスプラス—— 卒業式が挙行されました

募金状況報告

フリーページ—— すこやかスポット歯学講座No.27

「薬剤関連顎骨壊死」

表紙写真：卒業証書・学位記を受け取る卒業生（関連記事P.7）

特集

アピアランスケア コーナー

患者さんに寄り添う 当院のアピアランスケア

近年、がんやがん治療によって生じた見た目の変化に戸惑い、悩みを抱える患者さんへのサポート「アピアランスケア」の重要性が認められています。当院は令和6年度アピアランスケア支援モデル事業に選ばれるなど、多くの支援を行っています。本号では、当院の支援内容についてご紹介します。

アピアランスケアとは？

アピアランスケアとは、がんやその治療に伴う外見変化に起因する身体・心理・社会的な困難に直面している患者さんとそのご家族に対し、診断時からの包括的なアセスメントに基づき、多職種で支援する医療者のアプローチ」と定義されています。近年、がんやがん治療によって生じた見た目の変化に戸惑い、悩みを抱える患者さんへのサポート「アピアランスケア」の重要性が認められています。

■ 令和6年度アピアランスケア支援モデル事業

2023年3月、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、すべての国民とがんの克服を目指す」を全体目標に閣議決定された『第4期がん対策推進基本計画』がん予防、がん医療、がんとの共生の3つの分野のうち、がんとの共生において『拠点病院等を中心としたアピアランスケアに係る相談支援・情報提供体制の構築』が盛り込まれました。この基本計画に基づき、令和6年度アピアランスケア支援モデル事業として全国10か所の施設が選ばれ、本学附属病院は県内で唯一選ばれました。これを受け、岩手医大附属病院では、アピアランスケアに関する患者さんへの情報提供や、院内の体制を整備する取り組みを進めています。

取り組み

「IBCまつり」認知度アンケート

昨年9月に岩手産業文化センターで開催の「IBCまつり」に参加し、がんに関するアンケートを来場者500名に行ったところ、85%の方が「アピアランスケア」を知らないと回答しており、改めて広報の必要性を認識しました。

「健康フェスタ」ブース出展

メインコンセプトである「個性のケアを生きる力に」を表現し、外見変化に関する悩みについて相談できるということを紹介しました。来場者からは、「全く知らなかった」「数あるPRブースの中でも興味深かった」などの声を頂きました。

「アピアランスケアシンポジウム」の開催

県内の医療従事者を対象としたシンポジウムを2回開催しました。第1回は、国立がん研究センター中央病院の藤間勝子先生、第2回は、当院皮膚科の角田加奈子先生よりご講演頂き、院内外多くの医療従事者の方にご参加頂きました。

県内における周知活動

県内の医療機関にて研修会を開催し、当モデル事業で取り組んできた体制整備についてお伝えしました。また、併せて各医療機関と情報交換を行いました。今後も、地域におけるニーズを集約し、相談対応等の体制整備を図って参ります。

当院のアピアランスケア

アピアランスケアに関する相談は、当院での受診の有無に関わらずどなたでも利用可能な「がん相談支援センター」「がん患者・家族サロン」と、当院に外来通院されている方を対象にした「アピアランスケア外来」「乳がん看護外来」にて受け付けています。

■ 相談窓口

がん相談支援センター

- 脱毛ケアについての情報提供
(日常用品やケア帽子などの工夫)
- ウィッグの選び方、購入方法の案内
- 助成制度の説明
- 外見の変化に対する相談対応

【利用方法】

対 象：どなたでも利用可能
場 所：附属病院 1 階 患者サポートセンター内
受付時間：平日（月～金） 9：00～16：00
第 1・4 土曜日 9：00～12：00
電話番号：019-611-8073

がん患者・家族サロン

- アピアランスケアコーナーの設置
- がんについての各種冊子やリーフレットでの情報提供
- ウィッグやケア用品、補正下着の見本展示

【利用方法】

対 象：どなたでも利用可能
場 所：附属病院 2 階 がんセンター内
受付時間：平日（月～金） 10：00～16：00
電話番号：019-613-7111（内線 3222）

■ 外来

アピアランスケア外来

脱毛や皮膚、爪など様々な変化への専門的ケアを担当看護師に対処方法等を相談し、より専門的なアピアランスケアを提供しています。主治医や担当の看護師と連携し、治療後も継続した支援を行います。

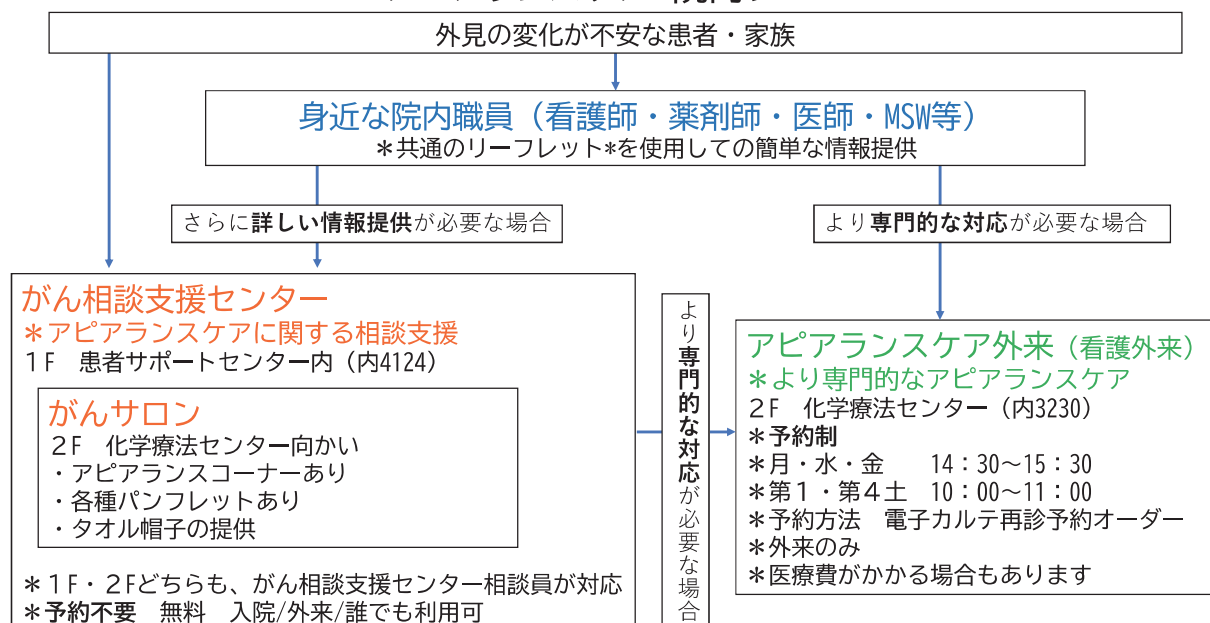
乳がん看護外来

手術後の下着やリハビリなどの不安や困りごとに対して、乳がん看護認定看護師と一緒に考えお手伝いしています。

※予約が必要になりますので受診を希望する場合は、主治医または看護師へお伝えください。

■ 院内フロー

<アピアランスケア 院内フロー>



Q アピアランスケアとは？

アピアランスケアは、医療者が行う支持療法のひとつで目的は Beauty ではなく Survive です。患者さんは、外見変化に対する思い込みや特別な製品が必要と誤解するケースも多く、医療者が正しい情報提供を行い、心理・社会的問題にアプローチすることは、QOL の改善に繋がります。

Q モデル事業の取り組み

まずは、患者さんに「医療者にアピアランスの問題を相談できる」ことが浸透するような取り組みを進めています。スタッフが情報提供できるようリーフレットも作成し、外来や病棟に設置しました。また、院内フローを作成し、院内どこからでも相談窓口につなげることができるように段階に応じた役割分担を整備しました。

Q アピアランスケアの課題と展望

継続的に行える相談支援体制の構築が重要だと考えています。また、院内外にアピアランスケアを広める役割を担っているため、自施設の取り組みを地域に向け、発信していく必要があります。そのため、地域の医療機関と連携する仕組み作りが課題であると考えています。



緩和ケアセンター主任看護師

がん相談支援センター担当

緩和ケア認定看護師 橘 寿江 さん



化学療法センター主任看護師

アピアランスケア外来担当

がん化学療法看護認定看護師 川野 由美子 さん

Q 相談窓口の役割について

がん相談支援センターやがん患者・家族サロンでは、アピアランスケアについて知りたいという相談に応じています。アピアランスコーナーを活用した情報提供を行っています。アピアランスケア外来では、より専門的な対応が必要な患者さんへの対応を主に担っています。

Q 相談内容はどのようなものですか

主に、がん治療中の脱毛、爪障害、手足症候群など症状出現時の対処方法について相談が多いです。その方にあった方法を、一緒に考えていきます。普段通りのスキンケアで良いことや、清潔、保湿を保つこと、自宅でできることを一緒に考えながらセルフケア指導を行っています。

Q 外見の変化で悩まれている方へ

脱毛だけでなく、爪や皮膚の変化など、どんなことでも相談して頂けたらと思います。外見の変化によって、気持ちが落ち込み、人との関わりを避けることがないよう、治療と向き合いながらも自分らしく過ごしていけるようにするのがアピアランスケアです。困っていることや悩みがあれば、主治医や看護師にご相談いただければと思います。

ロゴマーク

- アピアランスの「a」とケア「c」が合わさってハートを形成
- 左側の顔は自分らしく（胸を張って）生きている様子を表現
- 右側は思いに寄り添い支える（care する）医療関係者の手

当院のアピアランスケアのロゴには、医療関係者が患者さんに寄り添い、不安をやわらげることで、ご自身の治療に向き合っていただきたいという思いが込められています。



岩手医科大学附属病院
アピアランスケア
appearance care

令和7年度一般入学試験等が行われました

令和7年度岩手医科大学入学試験は以下の通り行われました。

入試区分	日 程	志願者数
医学部一般・地域枠 C,D (一次)	1月22日(水)	2,375 名
医学部一般・地域枠 C,D (二次)	1月31日(金) 2月1日(土)	
歯学部一般・共通テスト利用・ 医学部入学試験利用 (前期)	2月7日(金)	104 名
薬学部一般・共通テスト利用 (前期)	2月7日(金)	87 名
看護学部一般 (前期)	2月8日(土)	96 名
歯学部一般・共通テスト利用・ 医学部入学試験利用 (後期)	3月10日(月)	37 名
薬学部一般・共通テスト利用 (後期)	3月10日(月)	6 名
看護学部一般 (後期)	3月10日(月)	9 名



医学部一般一次試験 東京会場 (ベルサール高田馬場)

高大連携ウィンターセッションが行われました

12月25日(水)・26日(木)の2日間、矢巾キャンパスにおいて、いわて高等教育コンソーシアムと岩手県教育委員会が主催する高大連携ウィンターセッションが行われました。このイベントは、県内の高校生が県内各大学の教育・研究内容に触れる機会をつくり、各大学で学ぶことができる内容を広く知ってもらうことを目的として平成15年から開催しています。

本学では医・歯・薬・看護学部がそれぞれ講座を開講し、97名の受講者が講義や実習を体験しました。



災害時地域医療支援教育センターで行われた医学部講義

医療専門学校臨床実習受入式が挙行されました

1月20日(月)、医療専門学校上ノ橋校舎において、臨床実習受入式が挙行されました。これから同学科の1年生が臨床実習を行うにあたり、医療人としての心構えや責任感を自覚し、決意を新たにすために行われます。

式では、小林校長、山田歯科医療センター長、昆歯科衛生士長から挨拶が述べられ、学生を代表し伊藤りほさんは「歯科衛生士の役割と責任を、限られた実習時間の中で学んでまいります」と決意を述べ、歯科衛生士への第一歩を踏み出すことを誓いました。



臨床実習受入式を迎えた学生と教職員ら

脳卒中・心臓病等総合支援センター高次脳機能障がい者支援研修会が行われました

1月21日(火)、エスポワールいわて3階特別ホールにおいて、岩手医科大学附属病院脳卒中・心臓病等総合支援センターといわてリハビリテーションセンター共催による研修会が開催され、座長に小笠原学長、特別講演として中国労災病院の豊田章宏先生が講演しました。

当研修会は、「気付きにくい、気付かれにくい、見えない障害」と言われる高次脳機能障がい者の支援に関わっている医師及び医療従事者等を対象として企画され、医師や看護師、医療ソーシャルワーカーのほか、社会保険労務士等、多職種にわたる方々が参加しました。



豊田先生の講演「脳卒中後の治療と就労の両立支援」

最終講義が行われました

2月28日（金）、大堀記念講堂において、3月31日付をもって定年退職される教授の最終講義が行われました。

聴講者は、各教授によるスライドや在職中のエピソードなどを交えた熱心な講義に耳を傾け、名残を惜しみました。講義終了後には、職員や学生から各教授に花束が贈呈され、惜しめない拍手が送られました。

「歯学部で学んだこと」

歯科保存学講座歯周療法学分野

八重柏 隆 教授



「私が研究してきたこと — 膵β細胞の機能とcyclic ADP-ribose—」

病態薬理学講座臨床医化学分野

那谷 耕司 教授



「脾臓の構造とその病理について」

病理診断学講座

佐藤 孝 教授



「医学教育10年の総括と 外部評価への助言」

医学教育学講座医学教育学分野

田島 克巳 教授



「人生100年時代における 整形外科の役割」

整形外科科学講座

土井田 稔 教授



「画像を通して脳の病態に迫る」

超高磁場MRI診断・病態研究部門

佐々木 真理 教授



「医師として、研究者として、教授として、 病院長として、そして。。。。」

前脳神経外科学講座

小笠原 邦昭 教授



花束が贈られた定年退職教授ら

薬学部企業研究セミナーが行われました

3月1日（土）、矢巾キャンパス東研究棟1階SGL教室において、薬学部学生を対象とした学内企業研究セミナーが行われました。

本格的な就職活動時期を迎える薬学生への就職支援の最大イベントとして、官公庁・医薬品メーカー・保険薬局・医療機関等、全99事業所の人事採用担当者を招き、会社概要や採用情報を提供していただきました。

また、51名の本学卒業生が採用担当者とともに来校したことから、先輩の生の声を聞く貴重な機会となりました。



岩手医科大学附属病院ブース

歯科医師卒後臨床研修症例発表会が行われました

3月11日（火）・12日（水）の両日、内丸の歯科医師卒後臨床研修センターにおいて、令和6年度歯科医師卒後臨床研修症例発表会が開催され、臨床研修歯科医師15名が1年間の研修の成果を発表しました。当発表会はポスター展示とプレゼンテーションの構成で、プレゼンテーションでは指導歯科医の資格を持つ教員とディスカッションが行われました。1年の臨床研修を終え、新年度より新たな一歩を踏み出す臨床研修歯科医師にとって、貴重な時間となりました。



臨床研修歯科医師の症例発表

卒業式が挙行されました

3月7日（金）、トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）大ホールにおいて令和6年度岩手医科大学卒業式が厳かに挙行されました。本学役職者や教職員をはじめ、多数の保護者が出席されました。卒業式後には盛岡グランドホテルにて、父兄会主催卒業祝賀謝恩パーティーが6年ぶりに開催されました。令和6年度岩手医科大学医療専門学校卒業式は、3月11日（火）に歯学部4階講堂で挙行され、本学校の教職員、保護者が出席されました。卒業式後にはホテルメトロポリタン盛岡ニューウィングにて、卒業を祝う会が同じく6年ぶりに開催されました。

卒業生は母校の思い出と新天地への期待を胸に、医療人として決意を新たにしました。

■岩手医科大学卒業式

令和6年度岩手医科大学卒業生			
医学研究科博士課程	6名	医学部	120名
医学研究科修士課程	8名	歯学部	37名
歯学研究科博士課程	8名	薬学部	31名
薬学研究科博士課程	2名	看護学部	91名



トーサイクラシックホール岩手大ホールで挙行した卒業式



小笠原学長からの卒業証書・学位記授与



卒業生代表宣誓



会場の様子



集合写真（看護学部）

■医療専門学校卒業式

令和6年度医療専門学校卒業生：33名



歯学部4階講堂で挙行した卒業式



小林校長からの卒業証書授与

成育看護学講座の遊田 由希子 特任教授が 健やか親子 21 全国大会で一般社団法人日本家族計画協会会長表彰を受彰しました



この度、令和6年11月21日に鹿児島市で開催されました令和6年度健やか親子21全国大会で一般社団法人日本家族計画協会会長表彰を受彰しました。

日本家族計画協会は1954年の創立以来、家族計画・母子保健の普及啓発の事業推進に功績のあった個人および団体を表彰しています。毎年各県から1名が選出され、医師や助産師、保健師などが表彰されています。私は助産師として出産を終えた母親や家族に対して、家庭の事情にあわせた受胎調節の指導を行って参りました。また小・中・高校生に「いのち」の出前授業、防煙教育の他、喫煙している高校生や妊産婦に対して個別に禁煙支援を行って参りました。思春期の子どもたちや、妊娠、出産を取り巻く環境は時代とともに大きく変化しています。少しでも「うまれてきてよかった」、「産んでよかった」と思えるお手伝いを今後も続けていきたいと思っています。

最後に日頃より活動にご協力いただいた先生方には深くお礼を申し上げます。

(文責：成育看護学講座 特任教授 遊田 由希子)

成育看護学講座の西里 真澄 講師が 健やか親子 21 全国大会で健やか親子 21 内閣府特命担当大臣表彰を受彰しました

「健やか親子21」は、成育基本法に規定される成育医療等基本方針に基づく国民運動として位置づけられており、この一環として表彰が行われています。「功労者表彰」は、成育過程にある者の心身の健やかな成育並びに妊産婦の健康の保持及び増進に寄与する取り組みに長年携わり、地域社会全体でこどもの健やかな成長を見守り育む地域づくりに貢献している個人及び団体が対象となるもので、今年度は医師、保健師、助産師など48名の個人と3団体が表彰されました。

私は、医療機関において助産師として勤務したのち、保健所での電話相談員や両親学級の講師、子育て支援や男女共同参画に関わる活動、教育機関や地域での思春期教育などを経て教員になりましたが、現在も蛸崎奈津子教授はもとより講座の先生方のご理解・ご協力を得て、地域母子保健とのかかわりを継続しております。今回はこれらの活動を通じた母子保健の普及に対する評価をいただいたと感謝し、今後も尽力してまいります。最後に、日頃よりご支援・ご指導いただいております諸先生方にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。



(文責：成育看護学講座 講師 西里 真澄)

生体情報解析部門の小巻 翔平 講師が 日本DNA多型学会において優秀研究賞を受賞しました



令和6年11月28日～29日に横浜市立大学で開催された日本DNA多型学会第33回大会にて発表した演題「ヒトDNAメチル化情報を用いた年齢評価」が、優秀研究賞を受賞いたしました。

DNAメチル化情報に基づく年齢評価は当研究室が推進するテーマのひとつです。本演題では、DNAメチル化情報から年齢を正確に評価できること、ただしDNAメチル化状態は短時間のゆらぎを内包すること、そして短期的なゆらぎには生物学的示唆が含まれていることを発表しました。本演題は法医学や生態学など幅広い分野の方々より関心を寄せていただけたと感じました。授賞の期待に沿えるよう、今後も多方面の研究分野への貢献を目指し研究を進めたいと考えております。

本研究はボランティアの方々の方々の試料・情報を用い、当研究室教授・清水先生をはじめとするいわて東北メディカル・メガバンク機構スタッフの方々のご指導とご協力のもと進めたものです。皆様に厚く御礼申し上げます。

(文責：生体情報解析部門 講師 小巻 翔平)

表彰の栄誉

臨床薬学講座臨床薬剤学分野の高橋 宏彰 助教が 日本薬学会東北支部において奨励賞を受賞しました

この度、令和6年度日本薬学会東北支部奨励賞を受賞し、第46回東北薬学セミナーで受賞講演と授与式が行われました。

研究課題名は、「抗上皮成長因子受容体抗体薬に起因する皮膚障害の重篤化予測に関する研究」で、皮膚障害の重篤化に影響を及ぼすリスク因子の解析や皮膚バリア機能の指標となる経皮水分蒸散量等の皮膚状態を測定することで、皮膚障害の重篤化を予測し、回避することを目的とした研究です。研究から得られた知見をもとに、抗上皮成長因子受容体抗体薬による皮膚障害の重篤化が予想される患者に対して予防的あるいは早期から皮膚障害対策を強化することで、患者QOLの向上や治療継続に繋がることが期待されます。

ご指導いただきました工藤教授、薬学部の先生方、附属病院薬剤部の先生方に深く感謝申し上げます。

(文責：臨床薬学講座臨床薬剤学分野 助教 高橋 宏彰)



理事会報告（1月定例－1月27日開催）

1. 名誉教授の称号授与について

那谷 耕司（病態薬理学講座臨床医化学分野 教授）
小笠原 邦昭（現学長、前脳神経外科学講座 教授）
佐々木 真理（超高磁場MRI診断・病態研究部門 教授）
佐藤 孝（病理診断学講座 教授）
(称号授与年月日 2025年4月1日)

2. 役職者の選任について

医学部長 下沖 収（新任）
全学教育推進機構長 松政 正俊（新任）
総合情報センター長 櫻庭 実（新任）
総合情報センター副センター長 高橋 史朗（新任）
健康管理センター長 川田 一郎（新任）
(任期 医学部長、総合情報センター長及び副センター長、健康管理センター長は2025年4月1日から3年間、全学教育推進機構長は同日から1年間)

3. 教員の人事について

脳神経外科学講座 准教授
幸治 孝裕（前 同講座 特任准教授）
内科学講座循環器内科分野 講座内准教授
大和田 真玄（前 同分野 講師）
(発令年月日 2025年2月1日)
歯科補綴学講座冠橋義歯・口腔インプラント学分野 教授
今 一裕（現 同分野 准教授）
病態薬理学講座臨床医化学分野 教授
野口 拓也（現 東北大学薬学研究科衛生化学分野 准教授）
情報科学科数学分野 准教授
長谷川 大（現 同分野 助教）
(発令年月日 2025年4月1日)

理事会報告（2月定例－2月25日開催）

1. 役職者の選任について

副学長（医歯薬総合研究所、研究開発・共創センター担当）
仲 哲治（新任）
附属薬用植物園長 田浦 太志（再任）
附属薬用植物園副園長 辻原 哲也（新任）
学生副部長（歯学部） 石河 太知（新任）
学生副部長（薬学部） 杉山 晶規（新任）
学生副部長（教養教育センター） 高橋 史朗（再任）
附属病院長 森野 禎浩（再任）
図書館長 原田 英光（新任）
図書館副館長 中舘 克己（新任）
医歯薬総合研究所長 仲 哲治（新任）
研究開発・共創センター長 仲 哲治（新任）
キャリア支援センター長 遠藤 龍人（新任）
いわて東北メディカル・メガバンク機構長
丹野 高三（新任）
いわて東北メディカル・メガバンク機構副機構長
旭 浩一（再任）
いわて東北メディカル・メガバンク機構副機構長
石垣 泰（再任）
いわて東北メディカル・メガバンク機構副機構長
清水 厚志（再任）
(任期 学生副部長（歯学部・薬学部・教養教育セン

ター）、附属病院長、図書館副館長、キャリア支援センター長、いわて東北メディカル・メガバンク機構長及び副機構長は2025年4月1日から3年間、医歯薬総合研究所長は同日から3年間（嘱託雇用の契約更新を要す）、附属薬用植物園長及び副園長、図書館長は同日から2年間、副学長（医歯薬総合研究所、研究開発・共創センター担当）、研究開発・共創センター長は同日から1年間）

2. 教員の人事について

内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野 准教授
長谷川 豊（前 同分野 特任准教授）
内科学講座腎・高血圧内科分野 特任准教授
吉川 和寛（前 同分野 講師）
臨床遺伝学科 特任准教授
山本 佳世乃（前 同学科 講師）
(発令年月日 2025年3月1日)

3. 内部統制システム整備の基本方針について

令和7年4月1日より改正私立学校法が施行されることに伴い、学校法人がその活動を健全かつ効率的に運営するため、経営に関する管理体制、リスク管理に関する体制、コンプライアンスに関する管理体制及び監査環境の整備等に分類した内部統制システム整備の基本方針を承認した。

岩手医科大学募金状況報告

本学の事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。
ご支援いただいた皆様のご協力に感謝の気持ちを込め、ここにご芳名を掲載いたします。
今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。
※ご芳名及び寄付金額は、掲載を承諾された方のみ紹介しています。

学術振興資金募金

第26回目のご芳名紹介です。(令和6年12月1日～令和7年1月31日)

■ 法人・団体等 (2件)

<1,000,000>

株式会社 高宮商店 (岩手県盛岡市)

<100,000>

医療法人 杏仁堂 (長野県上田市)

(敬称略)

■ 個人 (6件)

<500,000>

塚原 正典 (医19)

嶋森 好子 (名誉教授)

<300,000>

内村 忍 (医22)

<200,000>

春山 航一 (医45)

<100,000>

山本 彬 (医59)

<ご芳名のみ>

鈴木 一幸 (名誉教授)

(順不同、敬称略)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
圭 陵 会	521	242,508,220
在 学 生 ご 父 母	397	95,730,000
役員・名誉教授	53	55,380,000
教 職 員	47	7,460,000
一 般	29	488,673,572
法 人・団 体	320	328,105,481
合 計	1,367	1,217,857,273

(令和2年9月1日～令和7年1月31日現在)

Cブロック外来

Cブロック外来は看護師5名、医師事務6名、受付事務6名で構成されており、糖尿病・代謝・内分泌内科、形成外科、皮膚科、脳神経外科、脳神経内科・老年科、放射線診断科、救急科、リウマチ・膠原病・アレルギー内科、臨床検査・感染症科のフリーアドレス診療を行っています。多数の診療の中で、特に糖尿病患者さんに対しては、糖尿病をもちながら生活している人が病気と折り合いをつけ、その人にあった療養生活を見つけ継続できるように支援しています。さらに、セルフケア支援の核として「生活者として患者さんを捉える」「患者に沿う看護」「指導ではなく支援」を心がけています。形成外科では、外来小手術室において局所麻酔下での手術や、レーザー治療を行っています。そのため、患者さんの不安に寄り添いながら、安心・安全に医療が受けられるよ

うに、ご家族を含めた支援を行っています。

当外来は、小児から高齢者まで幅広い世代の患者さんが受診しています。患者さんやご家族の多様なニーズに対応できるよう、多職種と協働しながら専門性の高いチーム医療を提供しています。

(主任看護師 三浦 智佳)



東8階A病棟

東8階A病棟は、泌尿器科・皮膚科・麻酔科の3科の混合病棟で、主に腎泌尿器・皮膚の悪性疾患に対する集学的治療や、慢性腎臓病に対する腎代替療法、CRPS等の難治性疼痛のペインコントロールなどが行われています。がんや慢性腎臓病では、治療期から終末期までの様々な病期の患者さんが療養しています。治療期では、治療による有害事象に対するケアや、治療に対する思いを傾聴し、治療が継続できるよう支援しています。また、治療中止となる段階では、段階に合わせた症状マネジメントやケア、その決定に至るまでの患者さん・ご家族の心情に配慮した意思決定支援を多職種で連携しながら行っています。

私たちは「看護観に基づき、患者や家族の思いを尊重した看護を提供します」を病棟理念に日々患者

さん・ご家族の視点に立ち看護を提供するよう心がけています。今後も、患者さん・ご家族に寄り添い、価値観や思いを尊重した看護を提供していきたいと思ひます。

(主任看護師 森岡 文香)



岩手医科大学報編集委員

祖父江 憲治	畠山 正充
影山 雄太	藤村 尚子
松政 正俊	高橋 慶
齋野 朝幸	阿部 俊
藤本 康之	杉下 佳子
白石 博久	石森 由樹
佐藤 泰生	菊池 いな子
佐藤 仁	最上 玲子
藤澤 美穂	高橋 淳美
塩山 亜紀	阿部 祥子
細田 留美子	

編集後記

3月7日に岩手医科大学卒業式、3月11日には医療専門学校卒業式が挙行されました。岩手医科大学の卒業式の同日には謝恩会、医療専門学校卒業式の同日には卒業を祝う会が6年ぶりに開催されたそうです。表紙やトピックスの記事を読みながら、ようやく通常が戻ってきたという安堵や祝福の気持ちと同時に、コロナ禍で様々な制限を強いられた昨年までの卒業生への複雑な思いが入り混じりました。今の状況が続き来年の大学報でもまた笑顔あふれる写真や記事がたくさん掲載されることを心から願ひます。

(編集委員 細田 留美子)

岩手医科大学報 第558号

発行年月日／令和7年3月31日

発行／学校法人岩手医科大学

編集委員長／祖父江 憲治

編集／岩手医科大学報編集委員会

事務局／総務部 総務課

TEL. 019-651-5111 (内線5452、5453)

FAX. 019-907-2448

E-mail: kouhou@j.iwate-med.ac.jp

印刷／河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp

すこやか スポット歯学講座 No. 27

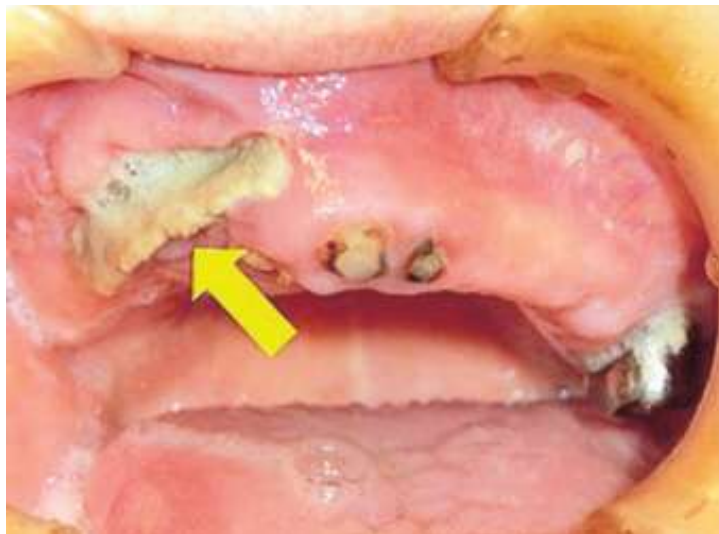
口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野 准教授 川井 忠



薬剤関連顎骨壊死

■ 薬剤による顎骨壊死

近年では様々な薬剤に関連する顎骨壊死症例が口腔外科に紹介されます。2003年に骨吸収抑制薬であるビスホスホネート製剤による顎骨壊死が初めて報告され、他の骨吸収抑制薬であるランマーク®やプラリア®などの抗RANKL抗体（デノスマブ）による症例も確認されたことから、骨吸収抑制剤関連顎骨壊死と呼ばれてきました。しかし、近年では血管新生阻害薬（ベバシズマブ：アバスチン®）、チロシンキナーゼ阻害薬（スニチニブ：スーテント®、ソラフェニブ：ネクサバル®）、mTOR阻害薬（シロリムス：ラパリムス®）、抗スクレロシンモノクローナル抗体（ロモソズマブ：イベニティ®）、メトトレキサート（リウマトレックス®）、副腎皮質ステロイドに関連した症例もあることから、薬剤関連顎骨壊死の名称となっています。



プラリア投与患者の顎骨壊死

■ 発症の原因

これら薬剤が原因で発症するのではなく、実際にはう蝕の進行による根尖病巣や歯周炎などの菌性感染が直接的原因と考えられています。そのため、自覚症状の無い菌性感染が存在する状態で先述した薬剤を開始すると、薬剤関連顎骨壊死を引き起こす可能性があります。予防には薬剤開始前に歯科でのスクリーニングを行い、感染リスクのある歯の適切な治療を行うことが重要です。

■ 発症のリスク

すでに薬剤投与されている患者については、低用量のビスホスホネート製剤や抗RANKL抗体であれば、発症リスクは両者とも0.1%と報告されています。高用量となるとそれぞれ1.6%、3.1%と増加します。過去では処置後の感染を危惧し、できるだけ抜歯などを避けていましたが、現在では感染源を残す方がよりリスクがあるとされ、高用量であっても積極的な歯科治療が推奨されます。過去に行われていた抜歯前の休薬については明らかなエビデンスがないため、現在では不要とされています。

■ さいごに

症状は軽度であれば骨露出や排膿のみですが、進行すると腫脹、疼痛、皮膚への瘻孔、骨折による咬合不全などを生じ、QOLが著しく低下します。発症した場合は、外科的治療が推奨されていますが、患者の状態によっては保存的治療となります。薬剤関連顎骨壊死を疑う時は早期に口腔外科にご連絡ください。